

ウランバートル市における障害者の
社会参加促進
プロジェクト(DPUB)
ニュースレター第22号

障害者デー、全国フォーラムでの報告
(2018.12.07)

12月3日に国際障害者デーのイベントとして「障害者の人権保障に向けた政府とNGOの連携強化」と題する全国フォーラムが開催され、DPUBも国際的な視点からモンゴルの成果と課題について報告させて頂きました。モンゴル政府の尽力により、モンゴルには障害者政策委員会が全国レベル、省レベル、地方自治体レベルで設立されており、これは国際的にも非常に評価の高いものだと思います。ただ残念ながら、政策委員会の運営や障害者の効果的な参加がまだ不十分であり、この点を課題として報告させて頂きました。ただDPUBの2年半の経験から、モンゴル政府および障害者団体はこれらの課題を解決していくと思っています。政策委員会も設立されてからまだ2年しか経っていないので、本格的な始動はこれからだと思います。障害者の参加を進め、適切な政策形成と実施がなされることを期待するとともに、JICAもモンゴル政府と障害者団体と一体となり障害者の社会参加を進めて行きたいと思っています。

* いろいろなニュースサイトでも報道されています。

<https://ikon.mn/n/1g4p...>
<http://www.medee.mn/main.php...>
<http://www.montsame.mn/mn/read/173159...>
<https://www.facebook.com/eaglenewssocial/videos/370100727059882/>

物理アクセシビリティ改善セミナーの実施 (2018.11.19)

皆さん、写真のような急なスロープをいったい誰が利用していると思いますか？ →

ウランバートルから誰も使わない急なスロープをなくし、すべての人が利用しやすいユニバーサルな街にするために、DPUBは「物理アクセシビリティ改善セミナー」を実施しました。セミナーには、建築協会や建設開発センター、労働社会保障省を始めとする行政官、障害者団体など70名以上が参加



し、改善に向けた対策について話し合いました。すると、そもそもの



セミナーの様子

設計自体にアクセシビリティが確保されておらず、そうなると当然、完成した建物もバリアフリーにはならないことが分かりました。またモンゴルには障害者も参加するアクセス監査委員会がありますが、そもそも建物がバリアフリーとして作られていないので、改善することが非常に難しくなっています。そこで設計図からアクセシビリティを確保するために、拘束力のあるチェックシートの作成が提案されました。このチェックシートを利用し、設計段階からアクセシビリティを確保し、さらに完成した建物に対しても同じチェックシートを適用することができれば、基準ごおりのアクセシビリティが確保できるはずです。ウランバートルは、いま正に開発途上であり、新しいビルがどんどん建てられています。この新しい建物がバリアフリーになるかどうか、障害者や高齢者、そしてすべての人にとって使いやすい街にするために、いまこそ「ユニバーサル・デザインの街づくり」が求められていると思います。

バヤンウルギー県での障害統計調査 (2018.12.21)

12/10より、バヤンウルギー県にて、国家統計局、労働社会保障省、ノルウェーの民間団体（NLM）が主催し、DPUBが研修協力等を行う形で障害統計調査が行われました。モンゴルでは現在、医療モデルに基づく障害統計のみが利用可能な状況と言えます。障害者権利法や障害者権利条約に沿うために、国際尺度による調査が必要と考えます。障害統計は大変複雑ですが、障害当事者の参加のもとで、改善が行われていく必要があります。

世帯調査の様子



CNNでのCM

12月3日は国際障害者デーでした。障害分野の取り組みを様々な形で発信していくことは重要ですね。12/3～12/10まで、アメリカのテレビ局であるCNNで、モンゴルの障害分野での活動についてのCMが放映されました。以下のリンクからも閲覧することが可能ですので、ぜひご覧ください！

<https://www.youtube.com/watch?v=qAVFzYR6NeQ>

DPUBがMNCの「トークタイム」という番組で取り上げられました。以下のリンクから、ぜひ御覧ください。

<https://www.facebook.com/mnctvchannel/videos/2081074868872353/>

JICA DPUBのFACEBOOKページに

「いいね」をお願いします。

おかげさまで、今ではページの「いいね」が**3682件**に達し、より多くの方に情報を発信できるようになりました。これからも、楽しんでいただけるような投稿を目指して頑張ります。引き続き、宜しくお願い致します。



千葉チーフアドバイザー

障害の専門知識

ESCAPには、結局1年半、仕事をしたのですが、痛感したのは障害専門知識のなさでした。国連なので、当然、一級品の専門家が集まります。その会議を横で拝聴していても、分からないことが多く、たまに意見を求められるんですが、トンチンカンな返答をしてました。仮にも国連の準専門官として、これはまずいという危機感はありましたが、一方で、今後も本当に障害分野で仕事をするのか分かりませんでした。だから、タイでも国際関係学の修士課程に通い、勉強しながら他の道も探してました。

そんな折、JICAのミッションがESCAPに来たのです。なんでも、バンコクに障害者センターを建てるとか。最初はどんなセンターか分からなかったのですが、ESCAPで推進する「アジア太平洋障害者の10年」を継続させるための取組だとか。当時は、JICAと言っても青年海外協力隊くらいしか知らなかったのですが、事業内容を聞くうちに、徐々に興味が湧いてきました。（つづく・・・）

DPUB連絡先

Office:

Government Building – 2, United Nation’s Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection
Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook:

<https://www.facebook.com/jicadpub>

Website:

<https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

E-mail:

dpub.jica@gmail.com